40496

日本建築学会大会学術講演梗概集
（中　国）１９９９年９月

環境モニターに対する３回のアンケート調査結果

羽生市における環境モニターによる居住環境評価　その１

正会員○錦戸陽介*1
同　三浦昌生*2
同　久保田徹*3
平井康尋*4

居住環境評価　モニター　羽生市

１．はじめに

本研究では，自発的に応募した「環境モニター」に対して数回の自由記入式質問中心のアンケート調査を行う居住環境評価手法の提案を行っている。本報では，この手法を適用した埼玉県羽生市におけるケーススタディ結果を報告する。**表１**に，ケーススタディの概要を示す。

２．羽生市の概要

95 年度の国勢調査によれば，羽生市の人口は 56,035 人，世帯数は 16,301 世帯であった。95 年までの 30 年間の人口増加率は 1.28 であり，現在も増加傾向にある。この間の埼玉県全体の人口増加率が 2.24 であることを考えれば，羽生市の人口増加は県下の他の市町村に比して著しくない。しかし，この間に羽生市の DID は鉄道駅を中心に大きく拡大しており，スプロール化の傾向が見られる。また，住宅の持ち家率が 80 ％以上であり，形式別には一戸建てが 85 ％以上を占めているという点が羽生市の特徴的な点である。

３．環境モニターの募集

自発的な意志に基づく応募が得られるよう，環境モニターの募集方法を検討した。ここでは，まず，羽生市の全世帯（約 16,000 世帯）に月２回配布されている市報「お知らせ版」の 98 年７月１日号に環境モニターの募集記事を掲載した。これにより 11 名からの応募があった。次に，芝浦工業大学卒業生後援会名簿から市内在住者 37 名を抽出し，環境モニターの募集の案内を送付したところ 19 名からの応募があった。次に，市内の全公民館とその他の公共施設を含めた計 14 ヶ所に募集チラシと応募はがきを８月の約１ヶ月間設置し 34 名からの応募を得た。以上の合計 64 名を羽生市の環境モニターとした。

４．第１回アンケート

８月～９月の間に，環境モニター応募者 64 名に対して，挨拶状とともに第１回アンケート票を郵送し，57 名から回収した。ここでは，まず，基本的な項目について選択肢式・記述式によって聞いた（**表１**）。

回答者 57 名中 29 名は転入経験がなく，28 名が転入経験を持ち，その場合の以前の居住地は，埼玉県の他市町村が 22 名で最も多かった。また，住まいの形式については，回答者 57 名中 49 名が一戸建ての持ち家であり，集合住宅に住むモニターは４名であった。

表１　ケーススタディの概要

1998年 ７月～８月	環境モニターの募集 ・市報「お知らせ版」に募集記事を掲載（11名応募） ・芝浦工大卒業生名簿によって募集案内を送付（19名応募） ・公民館などの公共施設に募集チラシと応募はがきを設置（34名応募） ・計64名応募
８月～９月	第１回アンケート調査　送付：64名　回収：57名 ・居住年数，以前の居住地，家族構成，交通手段，通勤・通学先，住まい周辺の土地利用状況，住まいの形式など（選択肢式・記述式17項目） ・以前の居住地と羽生市を比べてどのように感じるか（自由記入式） ・住まい周辺，市全体について，住みやすいと感じる点，住みにくいと感じる点（自由記入式）
10月	第２回アンケート調査　送付：57名　回収：50名 ・安全性について（選択肢式13項目，自由記入式） ・健康性・快適性について（選択肢式16項目，自由記入式） ・利便性について（選択肢式18項目，自由記入式） ・コミュニケーションについて（選択肢式11項目，自由記入式） ・総合的満足度（選択肢・記述式５項目） ・羽生市のこれからの方向性について（選択肢式１項目，自由記入式） ・大規模な公園の利用度について（選択肢式１項目，自由記入式） ・小規模な公園の利用度について（選択肢式２項目，自由記入式）
1999年 １月	第３回アンケート調査　送付：50名　回収：47名 ・羽生市の自慢できること（自由記入式） ・羽生市の今後の開発について（選択肢式１項目，自由記入式） ・モニターになったことによって居住環境への関心が高まったか（選択肢式１項目，自由記入式）
３月	羽生市勤労者総合福祉センターにおいて環境モニターとの懇談会開催　参加：８名

次に，羽生市の居住環境に関するモニターの問題意識を幅広く抽出する目的で，自由記入式質問によって全般的な事柄について聞いた。ここでは，住みやすいと感じる点・住みにくいと感じる点として，「住まいの周辺について」と「羽生市全体について」自由記入式質問によって聞いている。なお，この回答の分析結果については，次報を参照されたい。

５．第２回アンケート

10 月に，第１回アンケートで回答のあった 57 名のモニターに対して第２回アンケート票を郵送し，50 名から回収した。

ここでは，まず，住まい周辺の居住環境についての満足度を５段階の選択肢式質問によって４指標に分けて聞いたのち，それぞれについての意見を自由記入欄を設けて聞いた。次に，第１回アンケートで，モニターの意識の高かった項目についての質問を設けた（**表１**）。

第１回アンケートでは，公共交通の不便さを感じているものの，一方で開発されずに残された自然環境の豊かさに満足しているモニターが多いことがわかった。そこ

A Result of Three Questionnaires for Monitors Enlisted from Citizens
An Environment Evaluation of Hanyu City by Monitors Enlisted from Citizens　Part 1

NISHIKIDO Yosuke, MIURA Masao, KUBOTA Tetsu and HIRAI Yasuhiro

で，「これからの羽生市はどのような方向に進むべきか」を4段階の選択肢式質問によって聞いた。この結果，回答者 50 名中 29 名が自然環境を優先すべきと回答した（図1）。次に，その選択肢を選んだ理由について自由記入欄を設けて聞いた。回答の抜粋を表2に示す。

6．第3回アンケート

99年1月に，第2回アンケート回答者50名に対して，第3回アンケート票を郵送し 47 名から回収した。アンケート票は，第2回までの結果をもとに構成した（表1）。

はじめに，「羽生市の自慢できる点」を自由記入式質問によって聞いたところ，自慢できる点は無いとの回答が多かった。次に，調査者側から，一戸建て住宅によってスプロールしている羽生市の住宅地形成の現状を示した上で，鉄道駅を中心に集合住宅を主体とした利便性の高いコンパクトなまちづくりを行い，自然環境をその郊外部に残すといった将来像を具体例によって提示し，それについて賛成か反対かを3段階の選択肢式質問によって聞いた。この結果，回答者46名中「賛成」が16名，「どちらでもない」が23名，「反対」が7名であった（図2）。次に，その選択肢を選んだ理由について自由記入欄を設けて聞いた。回答の抜粋を表3に示す。

「どちらでもない」を選択したモニターの回答では，提示された考え方について高い評価を示しているものの，一戸建て志向が強いため，集合住宅を主体とした計画案に賛成できないという回答が多かった。「反対」を選択したモニターの回答では，一戸建て志向に加えて，計画の実現性に疑問を持つコメントが多かった。

7．まとめ

羽生市におけるケーススタディでは，公共交通の利便性に不満を抱いているものの，一方で開発されずに残された自然環境に満足しているモニターが多いとのアンケート結果が得られた。しかし，次のアンケートで，市の将来像として，利便性の高いコンパクトなまちづくりを具体例によって提示したところ，多くのモニターがその考え方に同意し賛成した。なお，本研究は，財団法人第一住宅建設協会の助成金によるものである。

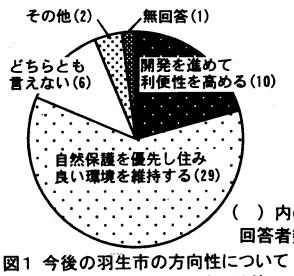
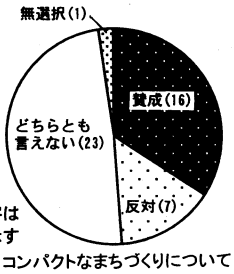


図1 今後の羽生市の方向性についての選択肢式質問に対する回答



（ ）内の数字は回答者数を示す

図2 コンパクトなまちづくりについての選択肢式質問に対する回答

表2　今後の羽生市の方向性についての自由記入欄の回答（抜粋）

「開発を進めて利便性を高める」を選択した回答者

・市の税収のアップにつながる施設を作るべき。
・他の市に遅れないように開発は進めた方が良い。
・都心へ通勤する人は年々増加しているため，環境の良い居住空間を残しつつ，開発を進めて利便性を高めるべき。
・老人の多い街なのだから，市の中心部はもっと利便性を良くするべき。

「自然保護を優先し住み良い環境を維持する」を選択した回答者

・次々と店が潰れていく現状にあり，これ以上開発を進めても無駄である。
・利便性よりも命が大切。将来の子供達のためにも。
・利便性を高めることも良いが，人口が増えて混雑した街よりも，ゆとりある住み良い環境が優先だと思う。
・人間が増えた分だけ自然が破壊され，空気や水が汚れる。
・羽生市の特性を維持，また，楽しむべきである。
・周りに自然がある生活は精神的にゆとりが生まれる。
・30 年間人口5万人という羽生市が，この高齢少子化の時代に拡大路線を取ることは，バブル時代の夢物語である。

「どちらとも言えない」を選択した回答者

・人口はある程度増やすべきだが，環境は破壊するべきでない。
・開発を進める地域と自然保護を優先する地域に区分けしても良いと思う。

表3　コンパクトなまちづくりについての自由記入欄の回答（抜粋）

「賛成」を選択した回答者

・既に開発された所により良い住宅や店舗を建設することは，無駄がない。
・郊外部へと市街地を拡げていくという都市計画は効率的ではなく，中心市街地の荒廃を招く。
・人が集中して住む場所，人が安らぎを求める場所，それぞれが分かれていても良い。
・中心部に店舗や公共施設などが整備されれば，循環バスくらいの交通で間に合うと思う。高齢者も安心して乗れるバスは，多くの市民にとって便利である。

「どちらとも言えない」を選択した回答者

・全く何もない更地の状態ならばこの案で良いと思うが，既に形成されている市街地にはこの計画は難しい。
・確かに住みやすく，また，環境を考慮していると思うが，住まいには，便利さだけでなくゆとりも必要である。
・コンパクトなまちづくりには賛成だが，集合住宅が主体である点が羽生市に似合わない。
・一戸建ての家に住むことが夢だと思うから。
・羽生市に住居を構える人の意識には，狭いながらも土地付き一戸建てに住みたいという考えが強い。
・提示された案は悪くはないが，現在の中心市街地は持ち家一戸建てが多く，住民の共同化への合意形成が難しいと考える。

「反対」を選択した回答者

・羽生市に住宅を求める人の大半は，一戸建て住宅を希望する。この種の集合住宅は都心に近いところで展開するべきである。
・予算が掛かりすぎるため，羽生市には無理。

＊1　埼玉県庁（当時芝浦工大学部生）　Saitama Prefectural Government
＊2　芝浦工大教授　工博　Prof., Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.
＊3　芝浦工大大学院博士課程　Graduate School, Shibaura Institute of Technology
＊4　当時芝浦工大学部生　Former Student, Shibaura Institute of Technology